



カプラ(Kapla)をしました。(1, 3年生)

現在、算数の時間に、平面や立体の図形について学習しています。その一環で、1, 3年生ではカプラ遊びをしました。カプラは、形をイメージし、積み木を使いこなしながら活動することで、想像力や集中力、新たなものを創り出す創造力を高め、さまざまな変化に適応していく器用さ、柔軟性を養うことができると言われています。また、分担して作業することや、お互いが協力して助け合うことなどを通し、協調性、創造性、社会性を養うことができると言われています。子どもたちは夢中になって木を積み上げたり、並べて形を作ったりしていました。



「第148回卒業証書授与式」を挙行了しました。

19日(火)、水沢小学校「第148回卒業証書授与式」を挙行了しました。終始おごそかな、あたたかい雰囲気の中で、式が進行しました。

卒業証書授与では、担任が名前を読み上げると、「はい」とはっきりとした返事をし、一人ひとりがマイクの前で、自分の将来に向けた夢やこれまでのお世話になった方々への感謝の気持ちを語りました。その後壇上に上がり卒業証書を受け取りました。「旅立ちの言葉」では、小学校生活の思い出とともに、堂々と卒業に向けた気持ちを語りました。



私から卒業生へ次の言葉を送りました。<校長が話した概要を一部抜粋して編集>



私には、大好きなCMがあります。歌手の岡崎体育さんが「生きててよかった」と熱唱しているCMです。高校時代同級生だった岡崎さんと日本代表の稲垣啓太選手は、厳しい練習に耐えながら楽しい日々を過ごしていましたが、卒業を期に異なる進路を選択します。三年間のラグビー生活を共に走り抜け、同じ時間を共有してきた「なかま」として、今もどこかで絆を感じているようです。CMでは、営業先を訪ねるために急ぐ岡崎さんとグラウンドを走り回る稲垣選手の姿、腰を低くして取引先の相手に頭を下げる岡崎さんと低い構えでスクラムを組む稲垣選手の姿が対比して映し出されています。対照的に見える二人の姿ですが、岡崎さんが自宅で湯船に浸かり「生きててよかった」と声を張り上げて歌っているシーンには、「自分も頑張っているんだ」と日々の充実感を感じます。CMの最後に、二人が夜のスタジアムにたどり着き、一瞬目を合わせると、共に前へ向かって走り始めるというシーンがあります。「挑戦する姿勢を持ち続ける限り、敗者ではない」、「誰かのために汗をかきながら走ること」や「信念を持って日々を一所懸命生きること」は尊い、ということをこのCMは語っていると思います。

CMで対照的に描かれている二人の日常ですが、どちらもひたむきで、言葉はないけれど、心はしっかり通じ合っているのだと感じます。人と人とのつながりの真の姿や誰かのために人が行動することの素晴らしさを教えてくれているようで、今でも私の心に強く響き、そのCMのシーンが印象深く残っています。

同じ時代に生まれ、同じ場所で生きることは、奇跡に近いことなのかもしれません。このCMのように、「人との出会い」がさらに良いものになるよう、中学生になってもそれぞれが自分を磨く努力を続け、なかまを大切にし、お互いに力を合わせながら、また、新しい一歩を歩んでいってほしいと思います。

今回の卒業生は、コロナ禍でさまざまな制限がある中、小学校生活の多くを送ることを余儀なくされました。また世界では、戦争や紛争により、罪のない人々が国を追われ、他国へ避難したり、命を落としたりするような出来事が起こっています。しかし、このような暗くて苦しい状況はいつまでも続きません。どんな苦難に陥ろうとも努力を惜みず、一所懸命やっていたら、いつかきっと明るい熱と光が差し、報われる日がやってくると思います。

皆さんの周りには、一緒に苦楽を共にしてきたなかまがいます。温かく成長を見守ってくださった地域の皆様、いつも傍で支えてくれる保護者の皆様がいます。

「人との出会い、ふれあいを大切にし、つながりを大切にすること」「生きていって素晴らしい」、皆さんのこれからの中学校生活に期待を込めて、卒業生にこれらの言葉を送ります。

卒業式に出席された皆様の温かい拍手に送られて、卒業生はこの水沢小学校を巣立っていきました。

裏面には、四日市市長・四日市市教育委員会からいただきました告辞を掲載します。(文責 北住 昌文)